クロスロード新聞

臨時増刊4号

2014 年6月21日

史上最大の参加者数！ クロスロードのつどいin 仙台 堂々開催！

発行元：108-8345　港区三田2-15-45
慶應義塾大学商学部　吉川肇子研究室内
クロスロードサポーター事務局

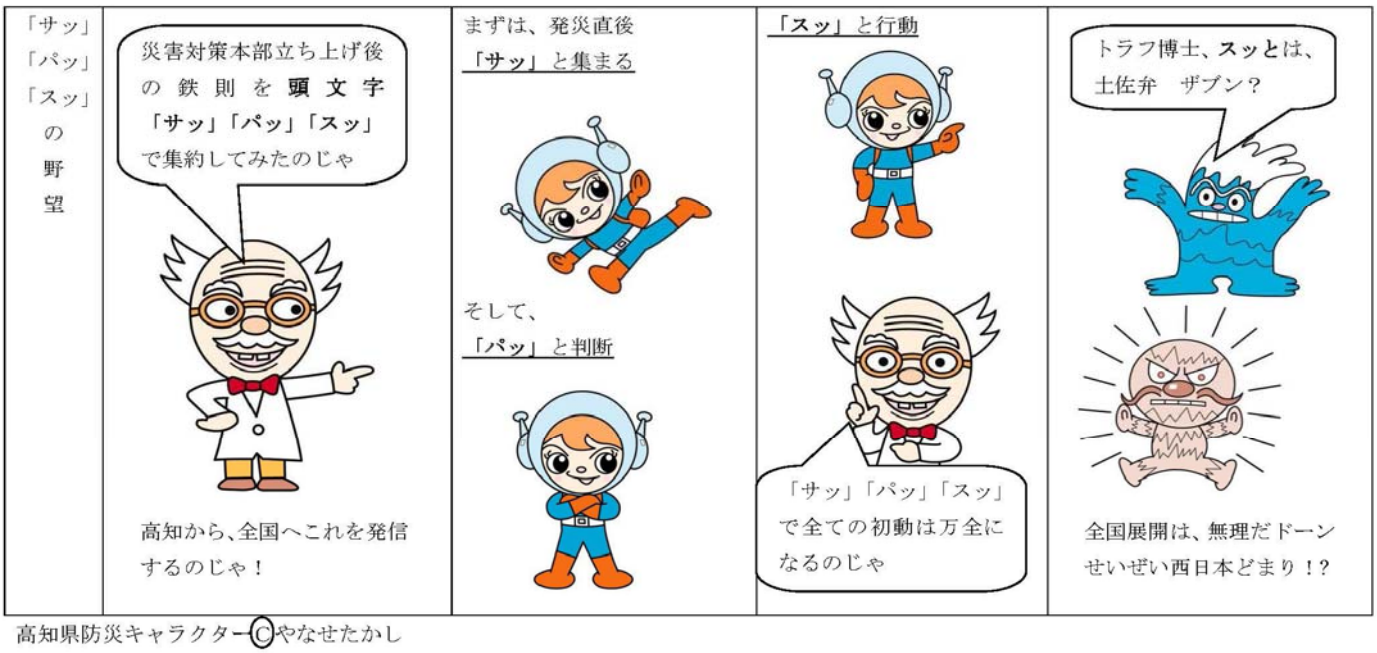
わしん倶楽部とTeam Sendaiのコラボが熱い！

クロスロードのつどい全国大会in 仙台が2014年6月21日に開催されました！なんと、140名超の参加者という、史上最大規模となりました。これもひとえに、わしん倶楽部、Team Sendaiをはじめとする仙台の皆様の熱い思いのおかげと感謝申し上げます。

【プログラム】
第1部
12:30-13:30楽しく学ぶ防災・減災ゲーム体験
13:30-13:35開会宣言
13:35-14:50クロスロードみちのく版（宮城野編）
14:50-15:00歩一歩たいそうズーズー弁翻訳版（わしん倶楽部）
15:00-15:15休憩
第2部
15:15-15:30報告！クロスロード開発者より
京都大学矢守克也・慶應義塾大学吉川肇子
15:35-15:45「クロスロード大洗編の開発について」
京都大大学院情報学研究科李フシン氏
15:50-16:05報告！神戸クロスロード研究会
16:10-16:25報告！仙台市クロスロード研究会（Team Sendai）
16:30-16:45仙台からのメッセージ（震災朗読リラの会）
16:50-16:55閉会挨拶

翌22日のエクスカーションを含め、当日の様子は次号でご紹介しますね！お楽しみにぃ！

サ・パ・スの野望



高知県防災キャラクター©やなせたかし

目次

仙台のつどい　1
サ・パ・スの野望　1
リアル座布団　2-3
神戸で1000人クロスロード　4
こんなところに心理学（36）ミニミニ編　4
夢ははてしなく　4

クロスロード次号のご案内
発行予定日：
2014．7.15.
仙台つどい詳報、
呉のつどいの思い出ほか

責任編集

- チームクロスロード
- クロスロード・サポーター
- SPECIAL THANKS:

高知県危機管理部南海地震対策課

現・高知県総務部法務課　小溝智子（漫画企画）

クロスロード体験　『リアル座布団バージョン』を実施 (^^)！

２０１３年１月２０日（日）、「“ひょうご安全の日”中播磨のつどい（福崎町文化センター）」でクロスロード体験　『リアル座布団バージョン 』を実施しました。

今回、神戸クロスロード研究会の協力のもと、参加者全員（約３００人）にＹＥＳ／ＮＯを選択してもらうとともに、舞台上でパネラーによるゲームを展開する新たな手法に挑戦しましたので報告します。

【概　要】
〇ファシリテーター　　神戸クロスロード研究会
（浜さん、西さん、柿本さん）
〇コメンテーター　　関西学院大学　室﨑益輝教授
〇パネラー　　２０代～７０代の住民７人
〇設問数（所要時間）　５問（所要時間８０分）

■“モヤモヤ感”を「お持ち帰り」してほしい！

きっかけは、昨年７月にクロスロードを初体験した際に感じた“モヤモヤ感”（何だ？ このモヤモヤした気持ちは‥‥）でした。

ＹＥＳ／ＮＯのどちら側にもそれ相応の理由があり、「こうあるべき」とは言い切れない“モヤモヤ”を感じること。それこそが、災害時のジレンマをリアルに体験できるクロスロードの醍醐味なんじゃないか！それは「正解」を学ぶ研修に慣れてきた私たちにとって新鮮な驚きでもありました。
そして、「正解のない二者択一の世界」に身を置くことでしか得られない、この“モヤモヤ感”を多くの地域住民に「お持ち帰り」してほしい！クロスロード体験後も自問自答を繰り返したり家族や友人と話し合ったりしてほしい！という思いが、今回の企画のスタートラインとなりました。

■「リアル座布団バージョン」の誕生！

こうして私たちは「大きな会場で大勢の参加者にクロスロードを体験してもらいたい」という命題を抱えて、神戸クロスロード研究会に相談を持ちかけました。その結果、様々なアドバイス（下表参照）をいただく中で『リアル座布団バージョン』という手法が誕生しました。

■様々な立場・視点からジレンマを体感！

さて本番では、「できるだけ多くの視点から災害対応を考えてほしい」「行政サイドのジレンマも疑似体験してほしい」という思いから、①避難所の食糧担当職員、②被災者、③川沿いの住民、④海辺の自主防災リーダー、⑤主婦という５つの想定の設問を用意しました。

【あなたは被災者・・・】
「地震で自宅が半壊し避難所へ。日頃の備えが幸いし非常用持ち出し袋に水も食糧もある。みんなの前で非常用持出し袋をあける？」の設問では、面白いことにパネラーの男性と女性で意見が真っ二つ！

‣ＹＥＳ：男性５人「日頃から災害に備えて準備していたものだから、あけてもよい」「必要なときだからあける」

‣ＮＯ：女性２名「持っていない人が大勢いる中では気が引ける」「困っている人がいれば必要な物をこっそり渡してあげる」（心温まる意見ですね！）

【あなたは主婦・・・・】
「風呂の残り湯を浴槽にためておくとカビや湯アカがつく。それでもためておく？」の設問では、ＹＥＳ４人、ＮＯ３人と接戦！

‣ＹＥＳ「カビや湯アカは強力な洗剤で何とかなる。それより災害
に備えておく方が重要」

‣ＮＯ＝「近くに川があるから、残り湯をためる必要性を感じない」「田舎は水道以外に井戸水もあり、水の確保がしやすい」

この設問は「水」という生活に密着したテーマであったためか、パネラーや客席から「阪神・淡路大震災で断水した際、毎日職場から自宅まで水を持ち帰って苦労した」「東日本大震災で被災した際、残り湯がトイレの排水に役立った」「浴槽にフタをしていないと地震の揺れで残り湯が浴槽から流れ出てしまうので要注意」など、自分自身の体験談を交えた様々な意見が飛び交いました。

大きな会場での実施上の課題	課題克服のための演出・仕掛け
大会場で一斉に実施する場合、グループ別討議ができないので、客席の参加者にとってＹＥＳかＮＯを単に選択するだけのゲーム進行に陥らないようにする必要がある。 **→　参加者全員が多様な意見を共有できる仕掛けづくり**	○会場内にスタッフを配置し、ＹＥＳ／ＮＯそれぞれの**意見を客席の参加者からも聴取**できるようにする。 ○前方の**スクリーンに客席の様子を映写**し、会場全体でのＹＥＳ／ＮＯの選択結果が全員に見えるようにする。
大会場で一斉に実施する場合、参加者それぞれに座布団カードを配布することができない。そんな状況の中で客席の参加者が「勝敗を決するゲーム」としてもクロスロードを楽しめるようにする必要がある。 **→　参加者全員が目で見て楽しめるゲーム性の演出**	○舞台上で**パネラー（住民）によるゲームを展開**して勝敗を決する演出（勝者には大喜利のように**「リアル座布団」の配布**）を行う。 ○パネラーは老若男女、**バラエティに富んだ人選**を行う。（自治会長、消防団長、自主防災リーダー、主婦等）

客席からも様々な意見が･･･

自分と向き合い、自分を再発見！

今回印象的だったのは、ＹＥＳ／ＮＯの選択に悩む中で自分と向き合う参加者の姿です。「防災リーダーである立場からはＹＥＳと答えるべきだが、個人的意見としてはＮＯ」というように、参加者が矛盾する心情を正直に語る場面が何度も見られました。クロスロードは他の人と意見を共有するだけでなく、日頃はあまり意識していない自分の価値観や周囲の環境を見つめ直し、新たに発見する「気づき」のツールでもあるんだなと実感しました。

大ホールでの実施であったためグループ討議はできませんでしたが、ファシリテーターの西さんのアドリブで、「意見交換タイム」が設けられ、客席では初対面の参加者同士が語り合う微笑ましい場面も見られました。これぞ！会場全体にあふれる一体感（いや“モヤモヤ感”！）。

参加者からは「いろんな状況を想定して考えることが大切だと感じた」「様々な意見に触れて新しい発見があった」と大変好評でした。閉会後、会場をあとにする参加者の背中に向かって、私はそっとつぶやくのでした････

「“モヤモヤ”おひとつ、お持ち帰りですね。ありがとうございます！」

（兵庫県中播磨県民局総務企画室　濵本剛英さん）

■ おまけ　～小道具の紹介～

パネラー用はうちわを加工して作成！

金色の座布団の確保が困難だったため、銀色パッケージの災害用備蓄毛布を活用！

12月23日は、神戸で1000人クロスロード！

続いて2014年12月23日には、神戸市で、同時参加者の記録を更新する「1000クロスロード」が開催されます！どうぞご予定にお入れください。さーて、どんなステキなことが起こるのか？！

詳細は次号およびWEBサイトでお知らせします。

なお、（右の写真とも）大規模クロスロードの実施報告を前2ページで大々的に紹介しました！！リアル座布団良いですね！！

こんなところに心理学（36）：7つの「チャンク」にまとめよう

防災用語って覚えにくい言葉が多いと思うのは私だけでしょうか？長い言葉や意味のわかりにくい言葉を覚えにくいのには、特に短い時間の記憶（短期記憶という）が関係しています。短期記憶は、数分からせいぜい20分程度までの記憶で、おもしろいことにどんな人でも記憶できる量にほとんど差がないことがわかっています。その量とは、「マジック・ナンバー７」、つまり、「7つ（±2）」なのです。たとえば、電話をかけるとき、相手の番号を短い時間覚えて番号をプッシュしますよね？その番号はたいてい、7−8桁だと思いますが、これがまさにマジック・ナンバーの範囲内なのです。7桁ならばっちり、携帯のように090や080がついて、11桁になると、覚えるのが難しいといったところでしょうか？

マジック・ナンバーは、厳密な文字や数字の個数ではなく、何かしらの意味あるまとまり（「チャンク（chunk）という）であれば7つ覚えられるということがわかっています。7文字以上あるときは、意味あるまとまりにまとめましょう。「どこに意味のまとまりの区切りがあるかわからない」ものは、短くても覚えにくくなるのです。

なんと！「サ・パ・ス」も「G・D・A」も、見事に7つ以内！覚えやすいキーワードで、災害対応だけなく、防災アクションを広めていきましょう！

＊＊

「サ・パ・ス」考案者の高知県危機管理部酒井浩一副部長からメッセージを頂きましたのでご紹介します。

「サ・パ・ス」は１５年間に及ぶ災害対応の経験を集約したものです。災害対応に１００点はありませんが、なんとか合格点は目指したい、そのための「分かりやすく、覚えやすい」キーワードは何かという願いから考え付いたものです。土佐弁「スッと」ってニュアンス伝わりませんか?

夢は果てしなく

高知県防災キャラクター©やなせたかし